

女性職員からのメッセージ



泉澤 百代 (Momoyo Izumisawa)

札幌国税局 課税第二部 法人課税課

昭和 61 年採用

H7. 3月～7.10月 育児休業

H19. 2月～20. 4月 育児休業

H22. 7月 札幌国税局 総務部 総務課

H24. 7月 札幌国税局 課税第一部 課税総括課

H25. 7月 札幌南税務署 法人課税第6部門

H26. 7月 現職

※ 所属は平成 28 年 1 月現在です。

現在のしごと

私が所属する札幌国税局法人課税課では、北海道全30署の法人税事務が適正かつ円滑に運営されるよう、職員が日々業務を行っています。

幅広い知識と多くの課題に対峙するための判断力などを身につけるべく、勉強と努力の欠かせない非常に責任の重い仕事であり、悩んで眠れないことや、眉間にシワを寄せて議論し合うことも少なくなく、アラフィフ世代にとっては死活問題にもなりかねません。

ただそれは、これまで培ってきた経験値を発揮しつつ、更に自らのスキルアップを図ることのできる、やりがいと魅力にあふれた職場であるということも意味しています。

印象に残っているシーン

法人税の税務調査担当として、これまで多くの企業に臨場してきましたが、多額の不正な処理を把握したある企業の代表者から、「あんたに見つけてもらって良かったよ。」と言われた時でしょうか。

税法の知識だけで不正を正すのではなく、その企業のおかれた様々な背景や現状を代表者や税理士から聞き取りした上で、その後の会社のあるべき姿などをとことん話し合った結果だったと自負しています。

それと、最近下の息子が「お母さん、今日はカッコいいね。」と褒めてくれたこともかなりテンションが上がりましたね。

ただ単に、飲み会の日だったのですが。



国税を目指す女性へのメッセージ

過去に一度だけ辞職を考えたことがありました。最初の育児休業明け、子供の体調不良の連絡が保育園から頻繁にあった時期です。

その時、当時の上司が言ってくれた「子供が熱を出すのは当たり前。フォローは皆でやるから、限られた時間の中で納得できる仕事をしなさい。」という言葉が、男性が多かった国税の職場で肩肘張らずにやってこられた、私の原点だと思っています。

今は女性職員も増えました。可能性に満ち溢れた皆さんの挑戦を、お待ちしております。